# 3.　Word関連の基本的なサブルーチンや関数

　sample02.wsf に出てくるサブルーチンや関数について解説します。

　Excel関連のサブルーチンや関数とかなり類似しています。

## (1)　[ドキュメントを開く]

　文字どおりドキュメントを開くためのものです。

　引数として "test.docx" などのファイル名を指定します。

　"C:\work\test.docx" のようなパス名でも大丈夫です。

　そのファイルは、存在していても存在していなくてもかまいません。

　つまり、新規作成でも既存のファイルのオープンでも、どちらでもOKです。

　この「開く」でファイル名を指定しておくことで、あとで [ドキュメントを保存] のときにファイル名を指定しなくて済みます。

　Wordの起動は、暗黙のうちに行うので意識しなくて大丈夫です。

　ドキュメントを開いたあと、次のグローバル変数がセットされます。

* [ドキュメント]: 開いたドキュメントのオブジェクトがこれにセットされる。

　なお、[ドキュメントを開く] はドキュメントオブジェクトを返します。

　なので厳密にはサブルーチンでなく関数です。

## (2)　[ドキュメントを保存]、[ドキュメントを別名で保存]

　[ドキュメントを保存] は、あらかじめ指定されていたファイル名でドキュメントを保存します。「上書き保存」に該当します。

別の名前で保存したいときは [ドキュメントを別名で保存] "work.docx" のような1行を書きます。こちらは「名前を付けて保存」に該当します。

　別名で保存した場合、その別名がデフォルトの名前になります。

　なので、次に[ドキュメントを保存] を実行すると、別名の方で保存されます。

## (3)　[ワードを終了]

　[ワードを終了] は、すべてのドキュメントを閉じてからWordを終了します。

　その際い、ドキュメントの保存の処理はしません。無条件にCloseします。

## (4)　[ワード]

　サンプルスクリプトには出てきませんが、 [ワード] という変数には Word.Application がセットされています。

　[ワード].ActiveDocument とすればアクティブなドキュメントを得られ、 [ワード].Selection によって選択部分またはカーソルのある部分を得られます。